

# 陸の水

====No.71=====

日本陸水学会東海支部会

ニュースレター（2016年2月8日）

発行：日本陸水学会東海支部会

連絡先：〒432-8561 静岡県浜松市

中区城北 3-5-1 静岡大学 工学部

戸田 三津夫

Tel:053-478-1146、Fax:053-478-1183

E-mail: [tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp](mailto:tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp)

## 目次

- 2015年度「サマースクール」の報告（p.1～4）
- ・第28回談話会（p.5）
- 第19回総会・第18回研究発表会のご案内（p.5～9）
- お知らせ
  - ・会費納入のお願い（p.10）
- 編集後記（p.11）

## 2015年東海支部会サマースクールに参加して

株式会社水地盤研究所 新實智嗣

8月29日、30日と今年もまた子どもたちと一緒に、陸水学会東海支部会サマースクールに参加してきました。我が家では夏休み最後のイベントとして定着しつつありますが、今年は末っ子も小学6年生、来年は一緒に行ってくれるかしら？そんな不安も抱きつつ始まりました。

### 【1日目】

当日は、足助香嵐溪の先にある百年草の駐車場が集合場所でした。天気は薄曇りでしたが、前日からの降雨により川は増水し濁流状態となっていました。

当初の予定では、1日目は川遊びの予定でしたが、断念せざるを得ません。事前にちょっと流れが速くて、深みがあると教えておいた子供たちも気合を入れて準備万端で臨んでいましたが、こればかりはどうしようもありません。急遽予定を変更して、2日目午前中の工程を前倒しすることになりました。

車5台に便乗して、巴川を下っていきます。目指すは、「則定堰堤」（写真-1）。



写真-1

この「則定堰堤」で取水された水は、下流にある「白瀬発電所」に導水路で繋がれており、ここで発電に利用されています。

車をおりて、山道を少々歩きます。堰堤の上を増水した濁水がゴウゴウと流れています。堰堤からさらに下流側へと足を運ぶと、そこには開放された導水路を見ることができました。こんな感じで暗渠になったり開水路になったりを繰り返しながら「白瀬発電所」までの 3.3km の道のりを流れていきます。

ちなみにここが建設されたのは大正 9 年（1920 年）、今から 90 年以上も前に造られたものなんですね！さすがにあちこち補修はされていましたが、当時のままの部分も見ることができ、歴史を感じることができました（写真-2）。

昔の子供たちは、度胸試しにこの暗渠部分を上流から丸太に捕まって流れて遊んでいたとか。今はフェンスでしっかり囲ってありますので、危険なことはできません。

いずれにしても、ここで取水された水は巴川を流れることはできず、発電所まで導水路を流れて行くことになります。裏を返せば、本来巴川に流れていくべき水が、発電のために取られているということになります。

取水堰をよく見れば左岸側に魚道も設置してあります。おそらく完成した当初は、魚道の発想などはあるはずもなく、魚達にも大きな影響を与えていたのではないかと想像されます。



写真-2



写真-3

再び車に便乗し、「白瀬発電所」へ移動。発電所のすぐ上部には砂やゴミを除去する水槽が設置されており、ここで流木やゴミなどを除去する仕組みとなっていました。今は、ゴミの除去もほぼ自動化されており、スクリーンにゴミが詰まって水位が上昇すると、自動で除去装置が稼働しゴミを除去してくれるそうです。うまく出来ています（写真-3）。

そして、最終的に「白瀬発電所」の所内のタービンを水の落差で回転させて発電させています。

巴川の自然河川勾配が 1/400（400m 行くと 1m 下がる）のに対して、導水路は 1/1,000（1,000m 行って 1m 下がる）と緩い勾配なので導水管の距離が長いほど落差を稼ぐ（発電

する力が大きく) なることになります。

そして、発電で使用された水は、発電所のすぐ下でようやくもとの巴川へ放流され戻ることになります(写真-4)。



写真-4

発電に巴川の水を使うといっても、最終的には水はもとの巴川に戻される。だから下流には影響はない?でも、途中の区間の水は減ってしまうから何らかの影響はあるのでは?しかも巴川水系だけでもこんな取水堰と発電所のセットが数か所ある!

普段何気なく見ていた川にこんな仕組みが隠されていたとは知りませんでした。いろいろ考えさせられる見学コースでした。

見学を終え、再び百年草に戻って、本日の宿泊先「あすけ里山ユースホテル」に移動しました。

このユースホテルは、廃校となった小学校を改装して造られています。一目見れば、その建物や広場が、校舎や運動場であったことが理解できました。

建物の外観も昔ながらの風格を醸し出していますが、建物の中も綺麗に改装されており、とても快適な空間が広がっていました(写真-5,6)。

子供たちは校庭や長い廊下を走り回り、二段ベッドに大はしゃぎしていました。



写真-5



写真-6

夕食の後は、山本会員から「矢作川のアユの紹介」として身近な矢作川のアユの生態についていろいろ興味深いお話を聞くことができました。

そのあとは引き続き、オーナーさんから夏の夜空のお話を聞きました。

オーナーさんは星を見ることが好きな方で、立派な天体望遠鏡も所有していました。残念ながら曇り空のため夜に予定していた星空観察会は中止となってしまいましたが、十分楽しい時間を過ごすことができました。

とても素敵な宿でした。ぜひ今度はプライベートでも来てみたいです。

## 【2日目】

2日目も朝からいまにも降り出しそうな天気の中、スタートしました。

本日の最終目的地は「平瀬ヤナ」です。

その前に、ちょっと寄り道して「羽布ダム」まで行ってきました。

このダムは、西三河南部地域のかんがい用のダムになります（写真 7,8）。



写真-7



写真-8

このため発電所などはなく、ただ水を貯めるだけの機能となります。

この日は前日までの降雨により増水した水を放水しているところを見ることができました。なかなかの迫力のある光景でした。

羽布ダムを後にして、いよいよ最終目的地の「平瀬ヤナ」に到着です。

子供たちはヤナを見るなり、駆け出して



写真-9



写真-10

ヤナの上で大はしゃぎです。子供たちだけ特別にアユのつかみどりをさせていただきました。この日も増水のため、ヤナにはかなりの勢いで水が流れ込んでおり、アユも飛んで来るようにヤナの上に打ち上げられていました。子供たちも必死にアユを見つけては楽しそうに捕まえていました（写真-9,10）。

一通りヤナで遊んだ後はお昼ごはんです。アユの塩焼き定食を食べながら、高橋会員よりヤナの歴史や地元との関わりなどについてお話を聞かせていただきました。漁業としてのヤナから地域観光のためのヤナへの変遷など、地元とヤナの関わりなどについて非常に興味深いお話でした（写真-11）。



写真-11

---

今回のサマースクールは普段何気なく見ている身近な河川が様々なことに利用されていることがよく理解することができました。

また、一つの河川に、地元の人や電力会社、漁業を営む人や下流域で農業をする人など、いろいろな立場や考え方で関わっている人がたくさんいるということを知る良いきっかけになりました。

天候に恵まれず、ちょっと残念なところもありましたが、子供たちは十分楽しんでくれたようだったので安心しました。

また、怪我もなく無事終えることができたのも参加者のみなさんのおかげだと感謝しております。ありがとうございました。

---

## 第 28 回 東海陸水談話会を開催しました

### 1. 話題提供

「中央ヨーロッパの河川再生について」： 山本 敏哉（矢作川研究所）

「数値河川生態系の構築に向けた取り組み」： 溝口裕太（名古屋大学大学院）

### 2. 日時

平成27年11月6日（金） 17時30分より19時30分まで

### 3. 場所 名古屋大学 減災館

開催内容、報告については次号に掲載する予定です。

---

## 日本陸水学会東海支部会 第 19 回総会・第 18 回研究発表会のご案内

今年度の総会・研究発表会を2月27日（土）、28日（日）に下記の要領で開催します。参加を希望される方は、参加申込み用紙に必要事項を記入のうえ、メールにてお申込ください。（件名を「陸水学会東海支部会総会申込」としてください）。メールでの申込をされた方には、受付済であることをお知らせするメールを返信しますので、申込をしたにも関わらず、メールが届かない方は、直接電話などでお問い合わせください。

◆日時：2016 年 2 月 27 日（土）昼頃（15:00 開始）～ 28 日（日）昼頃  
（口頭発表の演題数等によって 2 日目の午後にずれ込む可能性があります。）

◆発表会場：御嶽 王滝村公民館

長野県木曽郡王滝村 2758-3 TEL：0264-48-2134

(<http://www.vill.otaki.nagano.jp/sonnyuusisetu/kouminkan.html>)

---



◆ 宿泊場所：木曾御嶽 滝旅館

長野県木曾郡王滝村 3417-1 TEL：0264-48-2006

(<http://www.takiryokan.jp/>)

◆ 参加費（予定）：

・ 宿泊の場合

一般：13,000 円、年金受給者：8,000 円、学生：7,000 円

・ 日帰りの場合（研究発表会、総会のみ）

一般：1,000 円、学生・年金受給者：500 円

◆ 総会・大会申込先（必要事項を記載の上、2/12 までにお送り下さい）

日本陸水学会東海支部会行事担当幹事 新實

E-mail：tomo.niinomi@gmail.com FAX: 0561-56-6140

（※メール件名を「陸水学会東海支部会総会申込」として下さい）

◆ 要旨原稿：

発表を申し込まれた方は、講演要旨原稿を 2/19 までに以下要領で作成して、提出して下さい。要旨は A4 版 1 ページの word ファイル（様式は陸水学会年会の要旨に準ずる）とします。発表時間は題目数によって変わりますが 15 分前後（発表 10 分、質疑 5 分）を予定しています。研究成果報告だけでなく、研究提案や相談などの発表でも結構です。年度末のお忙しい最中とは存じますが、ふるってご参加くださいますよう、お願いいたします。

2015年度 日本陸水学会東海支部会総会・研究発表会 参加申込書  
2月12日（金）締切

## 1. 参加者情報：

- ・氏 名 \_\_\_\_\_ ( 男 ・ 女 )
- ・所 属 \_\_\_\_\_
- ・参加区分（いずれかに○）  
1：一般、 2：学生、 3：年金で生計を立てられている方
- ・連絡先  
住 所 \_\_\_\_\_  
電話番号 \_\_\_\_\_  
電子メール \_\_\_\_\_

## 2. 参加形態について

- ・宿泊・日帰り（いずれかに○）

## 3. 発表（いずれかに○）： 有 ・ 無 （有の場合は発表演題を記入下さい）

- ・発表演題 \_\_\_\_\_
- ・発表者名 \_\_\_\_\_
- ・Web公開の可否 \_\_\_\_\_ 公開を希望しない  
※今年度より講演要旨のweb公開を予定しております。公開を希望されない場合は、その旨ご連絡下さい。

## 4. 来場方法（いずれかに○）

自家用車を利用 ・ 公共交通機関を利用

## ※公共交通機関について：

発表会場および宿泊場所へは、JR 中央本線「木曽福島駅」から、おんたけ交通バス（木曽町生活交通バス）「三岳・王滝線」に乗車すると、発表会場前のバス停「王滝」まで約 40 分で到着できます。運賃は 200 円（定額）、宿泊場所もバス停から徒歩数分圏内です。

研究発表会のスケジュールは、バス時刻表の発着時間を考慮して設定する予定です。

## 参考 website：

王滝村：H27.3.30 ダイヤ改正：王滝－木曽町福島間の路線バス時刻表

<http://www.vill.otaki.nagano.jp/data/open/cnt/3/4776/1/H270330BUS.pdf>

木曽福島駅までの往復に JR 東海が販売している『木曽路フリーきっぷ』があります。以下 web もご参考ください。

<http://railway.jr-central.co.jp/tickets/kisoji/index.html>

## 日本陸水学会東海支部会 18 回研究発表会 講演要旨執筆要領

### 1. 原稿の形式

- 1) 講演要旨原稿は、MS WORD 形式（Windows）で作成したファイルを E-mail にてご提出下さい。  
締切は、2 月 19 日（金）必着とさせていただきます。

#### 要旨提出先

日本陸水学会東海支部会 谷口 智雅

送付先メールアドレス：taniguchi@human.mie-u.ac.jp

連絡先：059-231-9152（TEL & FAX）

※メールのタイトルに「東海支部会要旨」と明記してください。

- 2) 用紙のサイズは、A4 版に限ります。
- 3) 原稿枚数は、1 演題につき 1 枚です。
- 4) 講演要旨集は白黒印刷となります。

### 2. 要旨原稿の作成方法

- 1) 次ページの執筆例に必ず従って、以下の点に十分に注意して、作成して下さい
- 2) 用紙（A4）は必ず、上 20 mm，下 25 mm，左右 20 mm，の余白を取り、その枠内に文書及び図表を収めて下さい。
- 3) 演題，発表者氏名，所属は，上から 6 行以内にご記入下さい。
- 4) 演題および演者は、「日本陸水学会東海支部会総会・研究発表会 参加申込書」（p4）と同一にして下さい。
- 5) 連名の場合は，講演者の氏名の左肩に（\*）印を付けて下さい。連名者が多い場合は，所属毎に改行せずに続けてご記入下さい。氏名及び所属に関する文字は，必ず MS 明朝（10 ポイント）を指定下さい。
- 6) 演題は，MS ゴシック（13 ポイント）を指定して下さい。
- 7) 講演番号を記入するため，1～4 行目は左側 40 mm を必ず空白にして下さい。
- 8) 本文は 2 段組とし，はじめに，材料と方法，結果，考察の項に分け，それぞれの文頭にこれらを小見出しとして明示して下さい。研究内容によりこれらの項目に分け難い場合には，項目の一部省略も可能とします。
- 9) 小見出し（はじめに，材料と方法，結果，考察等）は，必ず MS ゴシック（10 ポイント）を指定して下さい。
- 10) 本文の日本語は MS 明朝（10 ポイント），英数字は Times New Roman（10 ポイント）を必ず使用して作成して下さい。
- 11) 図表を載せる場合には，小さな文字や図は避けて下さい（大会事務局や印刷業者では，図表や写真に関しては特別な処理は行いません）。

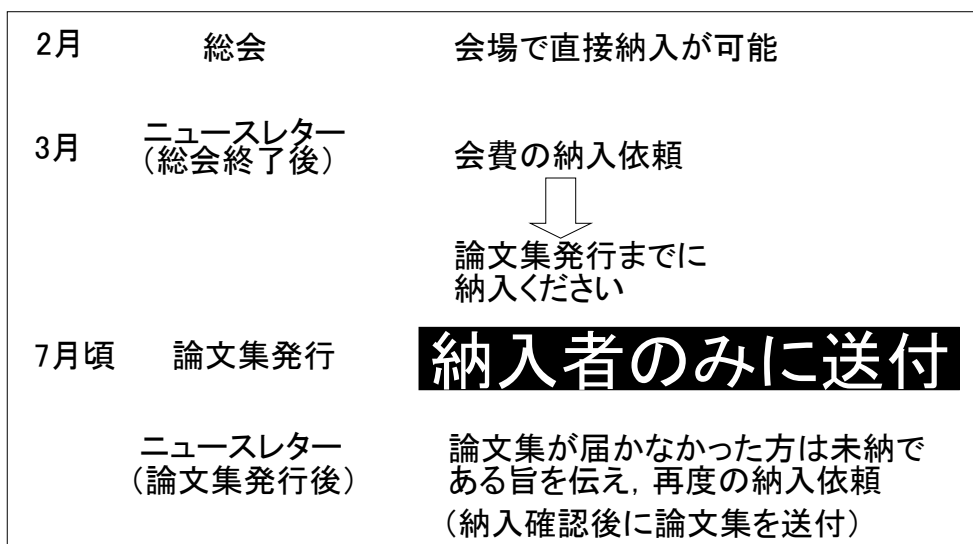


## 会費納入について

会費の納入が確認できた会員にのみ、論文集を送付することが総会で承認されました。論文集の発行が毎年7月頃に予定されておりますので（本年度は8月予定）、研究発表会・総会（2月）に直接納入をされなかった会員の方は、その時期までに会費納入をお願いします。忘れてしまうことも考えられますので、早期をお願いします。

論文集発行後のニュースレターで、「論文集が届かなかった会員の方は会費が未納である」ことを伝え、再度会費の納入をお願いさせていただきます。論文集の発送までに会費納入が間に合わなかった方は、その旨事務局

（[taniguchi@human.mie-u.ac.jp](mailto:taniguchi@human.mie-u.ac.jp)、担当：谷口）までご連絡ください。論文集は、会費の納入確認後に送付されます。皆さまからの会費は支部会の運営を支えるものですので、お忘れなく納入いただきますようお願いいたします。



## 会費の納入方法について

納入方法として、下記「ゆうちょ銀行」への振込、もしくは談話会や研究発表会などでの直接的なお支払いも受け付けております。ゆうちょ口座から通帳かカードでATM振込をご利用いただくと手数料無料となります（ATM送金料金が無料となるサービス期間は現在も継続中）。会費納入状況が不明な場合は事務局までご照会ください。2年度分の会費が未納の方は、規約に従い、翌年度には自動的に退会となりますのでご承知おきください。その際も、未納会費2年分のお支払いをお願いしております。

---

年会費：一般 2,000 円、学生（大学生以上）1,000 円、高校生以下は無料、  
団体 4,000 円、家族 3,000 円

**振込先が変わりましたので、ご注意ください！**

< ゆうちよ銀行からお振込みの場合 >

記号：12120-2 番号：73385891

名前：日本陸水学会東海支部会

< 他の金融機関からお振込みの場合 >

銀行名：ゆうちよ銀行

店名：二一八（読み ニイチハチ） 店番：218

預金種目：普通預金 口座番号：7338589

カナ氏名（受取人名）：ニホンリクスイガツカイトウカイシブカイ

\*\*\*\*\*

**入会および退会の手続きについて**

総会で、入退会の手続きを以下のようにルール化することが確認されました。

■ 入会手続き

① 当会の HP にある入会申込書に必要事項を記入

② 申込先は会長宛て※とする（その後、担当幹事へ情報を共有）

■ 退会手続き

① 退会する旨、会長宛て※に連絡（その後、担当幹事へ情報を共有）

3 月は学生の方が卒業されるので、教員の方は特にご配慮お願いします。

※2015 年度は、谷口智雅会長（[taniguchi@human.mie-u.ac.jp](mailto:taniguchi@human.mie-u.ac.jp)）まで

\*\*\*\*\*

（編集後記）

みなさま、お待たせしました。 陸の水ニュースレターNo.71 をお届けします。

発行時期が大幅に遅れて、大変申し訳なく思っております。あまり言うてはいけないと思いつつ、「忙しい...時間がとれない」、状況はますますひどくなっているような気がします。大学向けの運営交付金の削減、成果重視などいろいろな要素がありますが、身動きとれないときがあります。そうそう、予約していた函館学会にもとうとう行けませんでした。とにかく、兵士と警察、消防、先生が暇な社会、それが目指すべき社会の状況だと思うのですが、いかがでしょうか。

メール告知が先行しましたが、いよいよ研究発表会の季節です。浮き世のことを忘れて、みなさまと山で語り合うのを楽しみにしています。（戸田 三津夫）